

議長定例記者会見 会見録

日時：令和８年１０月２０日 １３時３０分～

場所：全員協議会室

１ 冒頭発言

２ 質疑項目

- 知事定例記者会見における一部記者の参加制限について
- インターンシップ実習生からの提案について
- 議員定数や選挙区の見直しについて

１ 冒頭発言

（議長）ただいまから１０月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日、発表事項はありませんので、９月定例月会議を振り返って一言申し上げたいと思います。９月定例月会議では、１６本の議案が上程されました。一般会計補正予算では、台風第６号による被害の復旧や、物価高騰に係る支援等を実施するための補正予算案を速やかに議決した他、全国初となる罰則付きの条例案である「三重県カスタマーハラスメント防止条例案」を、慎重に審議をし、先週１６日に議決をさせていただきました。カスタマーハラスメントは、働く方の意欲や生産性を低下させ、健康被害等を含めて、事業活動にも悪影響を与えます。この１０月から、法改正により、事業主によるカスタハラ対策が義務化され、対策が強化されたところですが、執行部におかれましては、本条例に基づき、県内のカスタハラ対策がさらに加速するよう取り組んでいただきたいと思います。また、１０月２日に行われました全員協議会では、令和９年度の三重県行政展開方針案および当初予算調整方針等が示された他、次期総合計画の策定について説明があり、議員からさまざまな意見が出たところであります。その他、１０月１６日には、令和７年度決算に係る議案が追加上程されましたので、今後審査を進め、１１月定例月会議で採決を行う予定でございます。いずれも県政全体に関わる重要なものですので、今後の本会議や委員会を通じて、十分かつ真摯な議論が尽くされるよう、副議長ともども、引き続き、公正中立な議会運営に努めてまいりたいと思っております。私からは以上でございます。

２ 質疑項目

- 知事定例記者会見における一部記者の参加制限について

（記者）幹事社です。特に先ほど、今お話いただいた議会の関係で、幹事社からは質問ないんですけれども、今議長のお話の中で質問ある記者さんはいらっしゃるのでしょうか。特になければ項目外の質問させていただいてもよろしい

でしょうか。

（議長）はいどうぞ。

（記者）県のフリー記者の対応を巡って、一時、会見拒否等の話もあったかと思うんですけども、まず県の対応について、何かこう、考えてらっしゃることとか、思うことってありますでしょうか。

（議長）知事の定例記者会見において、そのような対応がなされたということは伺いました。私どももまだ現時点で詳細に把握している状態ではございませんので、この件に関してはちょっと、現時点でコメントは差し控えたいと思っています。

（記者）分かりました。県の職員に対して怒鳴ったりするという行為があったというふうに県からも聞いておりますけど、何か議会に対してそういったフリーの記者からのそういった行為っていうのはあったのか、正副議長、それぞれに伺えたらと思うんですけども。

（議長）私個人として、その現場であったり私に対してというのは、記憶にありません。

（記者）副議長いかがでしょうか。

（副議長）6月の下旬になりますけれども、フリーの記者の方が議会事務局にやってこられて、大声を張り上げて怒鳴ったという事実がございました。その後、副議長がその旨を知っているということを伝えて欲しいということで、その後局長のほうからそのフリーの方に、副議長が知っていると、心配をしてるという旨を伝えて、その報告を受けました。人事権者でもある知事にはその旨を伝えました。以上です。

（記者）そういった行為があったのは6月下旬の1回だけですか。他にも多数あるのでしょうか。

（副議長）そういう対応をとったというのは1回だけです。

（記者）知事に伝えた上で何かこう、知事から何か言われたりとか、議会事務局としての対応になるのか、その辺りの対応はその後どうされたんでしょうか。

（副議長）知事が即座に対応する権限があるのかどうか分かりませんが、2人の中ではあんまりよろしくないよね、やめて欲しいよねという話はしたと思います。

（記者）2人っていうのは知事と副議長ですか。

（副議長）はい。

（記者）分かりました。ありがとうございます。幹事社からは以上です。何か質問ありますでしょうか。

（記者）先ほどの話の続きで、副議長にお尋ねするんですが、具体的に例えばどういう文言であったりとかですね、どういう話で、流れでそういった経緯に至ったかということとは把握されてますか。

（副議長）多分ご存じだと思いますけども、記者との意見交換会を予定しておりました。当時、台風が三重県に接近をしているということで、その意見交換会をやるかどうか判断に迷っていたと。紀宝町のほうで災対本部を設置したので、結果、三重県も災対本部を設置して、その意見交換会は中止になったということなんですが、その対応について、フリーの記者から意見をいただいたということですね。そのフリーの記者と三重県のフリーの記者が一緒かどうかは、私のほうからは言えませんが。

（記者）確か意見交換の際は、どなたかわかりませんがそのフリーの方以外のフリーでない記者からも、いろいろあの日は中止になるのかならないのかということ、ぎりぎりまで問い合わせ等もあったのではないかなと思いましたけど。議会事務局も結構記者クラブ来てくれて、ちょっとどうしようかみたいなね、話はしてましたが、結果はあれは、当日は夕方ぐらいに中止を判断したんでしょうか。

（副議長）そうですね。前日か当日か忘れましたが、間際だったと思います。

（記者）中止の判断は当日やったかな。当日やったね。

○ インターンシップ実習生からの提案について

（記者）この項目以外でお尋ねしてもよろしいですか。インターンシップ実習生の報告を傍聴させてもらいました。本題ではなかったですけども、議会事務局

のほうが、開庁前の時間帯とかに電気を消して仕事をしてたりとかすることへの疑問も呈されましたね。これ本庁も同じように就業時間ではない、例えば昼休みであったりとかですね、開庁前、電気消してるんですけど、率直に疑問の声を受けて、議長としてどのようにお感じになりました。

（議長）議長として。

（記者）職員らが、開庁前に電気を消して作業している様子っていうのを議長として。

（議長）基本的には休憩時間という理解で電気消されてるんだと思います。まずそれは経費節減という視点からいけば、それも一つの考え方かなと思いましたけども、これは経費の問題もありますので、一度その問題を、事務局と話をまだしてませんので、一度どうするかは検討させていただくようにしたいと思います。

（記者）特に、あの報告というか声があるまで、そういった実態になっていることは、議長としてはご存じでしたか。

（議長）知っておりました。休み時間というのはこれは職員さんにとっても大事なことです、その時間帯は経費を節減するという考え方なんで、それは考え方として間違っていないかなとは思ってます。

（記者）一方で開庁前の時間、朝早くの時間ですね。これについては、一部その柔軟な働き方ということで、就業時間を前倒しされている方も中にはいるかと思われそうですけれども、そういった観点から、また、みんなが8時半からですかね、というわけではなく、もう少し早めに来て作業しなければいけない人もいるっていう中で、細かなことかもしれませんが、おそらく8時半から付けなきゃいけないって決まってるからそうしてるんだろなというふうには思いますけど、そちらの休み時間ではない時間帯の作業中の消灯っていうのはどう思います。

（議長）早朝はあまり私来てませんので、実際、電気を消して仕事してるのかどうかってのは分かりませんが、その辺のところはちょっとコメントしづらいものがあります。

（記者）同様に、議事堂には自販機がないっていうご指摘もですね、皆さん笑ってましたけど、そこらももし受け止めがあれば、ご感想あれば、何か対応された

いこととか検討されたいことあればお願いしたいです。

（議長）自販機がないというのは指摘をいただいて、「あ」という、そういう感じでしたので、これは一度、検討の価値があるかなと思いますが、必ずしもなければならぬのかということはあると思います。職員の皆さんであつたり、あるいは私ども議員にとって、議員はそれなりの飲み物の準備をしますので、外からいらっしゃった皆さん方に対してどうするかという点でどうかなと思いますし、ただもっと違う視点、例えば議員連盟の中にお茶議連というのがありますので、三重県の伊勢茶をPRするために置くということも考える必要もあるのかなとは、発言をいただいて考えを巡らせたことは事実です。

（記者）副議長もすみません。以上2点、電気の話と自販機の話、もし思うところあればお聞かせいただきたい。

（副議長）議長がおっしゃるとおりで、もう特に伊勢茶については、ぜひ何らかのものを置いてくれたらいいなとは思っております。

（記者）これは職員とか議員に限らず、一般の方、傍聴に訪れた方も少し試飲ができたりとかってイメージですかね。

（副議長）非常に広報としても効果があると思いますし、結構お茶どころの市役所とか行きますと、お茶の給茶機みたいなもの結構置いてますので、いいなと思って見ておりました。

○ 知事定例記者会見における一部記者の参加制限について

（記者）他、何か質問ありますでしょうか。

（記者）すみません、フリーの記者さんの話にちょっと戻るんですが。県の知事会見と同様に、議長会見に出席を、怒鳴るような行為があつた場合ですね、議長会見のほうにも出席を拒否するとか、そういうお考えはあるんですか。

（議長）これは現時点で、知事さんがどういう理由でされたのかということの、その根拠になる詳しい情報を掴みきれてませんので、それとの兼ね合いもあるかと思います。それで、特別に常識を超えたようなことがあれば、それはそれで、罰則付きのカスハラ条例を作った県ですので、いわゆる限度を超えたようなことがあれば、それはそれで考える必要があるかなと思いますが、現時点では、それを検討するような状況にはなっていないというのが、私の捉え方です。

(記者) 分かりました。ありがとうございます。

(記者) 他は質問ありますでしょうか。

○ 議員定数や選挙区の見直しについて

(記者) 1点だけすみません。選挙区および定数に関する特別委員会ですかね、現在は設置されてませんけれども、何だかその意向について、各議員に問うようなアンケートっていうか調査っていうんですかね、何かされているように伺ったんですけど、これ、今まだ調査中ですか。

(議長) 議員個々にということではないんですけども、各会派の代表者を含めて中心のメンバーの方に、事務局のほうからちょっとお伺いをさせていただいたという経過はございます。ほとんどの会派が、現時点では必要ないんじゃないかというお話を伺っております。

(記者) 必要ないというのは、そういった選挙区や定数に関する特別委員会を設置する必要があるという認識でよろしいでしょうか。

(議長) というのはですね、前回、検討するための状況分析の中での項目を見たときに、ほとんど大きな変化がないというところであるというのが、今の共通の認識に近いのかな、中にはそれはいろいろご意見ある方もあるかもしれませんが、そういう状況ですので、本年度、特別委員会を開くという必要はないというのが、皆さん方の判断で、新しいメンバーが変わって、そこでということは、否定はできません。

(記者) ほとんど大きな変化がないというのは、やっぱ人口の増減とか、各地域ごとに割合とかということですか、

(議長) 確定値出ましたので、177万人が169万3000人に約7万7000人減ったということではありますけども、前回の選挙から比べて大きな変化がないという判断を私どもはしておりまして、その総定数、1票の格差、定数と人口の逆転現象、合区等、このあたりが前回の改定するときには検討する必要があるという判断をしたんですが、今回の結果を見ても、人口は先ほど申し上げたように減りましたが、先ほど申し上げたところを、視点を比べたときに、大きな変化がないという判断をさせていただきました。

(記者) 全ての会派が設置は必要ないと言ったわけではなく、ほとんどの会派と、おっしゃっていただきました。

（議長）私が聞ってる限りは、現時点で必要ないというのは、全ての会派と聞いております。

（記者）議長ご自身としても例えば、今は別に特別委員会の設置について検討するという段階では今はないという認識でしょうか。

（議長）今回のあれに関してはないというところです。

（記者）ありがとうございます。

（記者）何か質問ありますでしょうか。特になさそうですので、これで終わりたいと思います。

（議長）どうもありがとうございました。

（ 以 上 ） １３時５０分 終了